

平成27年度第2回エデュカーレ in たかはし

消えてたまるか中山間

報 告 書

開催日時：平成27年7月11日(土) 13時30分～17時30分

会 場：吉備国際大学国際交流会館2階多目的ホール

主 催：エデュカーレ in たかはし実行委員会

後 援：高梁市、高梁商工会議所青年部

協 力：吉備国際大学社会科学部 井勝研究室

吉備国際大学地域創成農学部 森野研究室

吉備国際大学外国語学部 大下（朋）研究室

1. はじめに

第2回エデュカーレ in たかはしは、「消えてたまるか中山間」というテーマで会場参加型トークセッションを行いました。最近では、色々な地域が地方創生に取り組んでいますが、なかなかうまくいっていません。地方創生には様々な方法がありますが、そういった方法について考える場としてこの会を開催しました。今回、中山間地域の活性化に関わっておられる3人のゲストをお迎えし、中山間地での暮らしや在り方について様々な人と意見を交わすことで、中山間の今後について自分に何ができるのかを考えるきっかけになったと思います。

2. 実施内容

1) ゲスト

今回、中山間地域の活性化に関わっておられる下記3人のゲストをお迎えしてトークセッションを開催しました。

仲田芳人さん

旬刊ローカル新聞「備北新聞社」代表、「かのさと体験観光協会」事務局長、「新見ふるさと塾21」渉外担当、(特)まちづくり推進機構岡山理事、(特)みんなの集落研究所評議員、岡山県地域づくりマイスター

徳田匡彦さん

高梁市職員、地域に飛び出す公務員アワード2014受賞

木下志穂さん

特定非営利活動法人みんなの集落研究所執行役。国立大学法人岡山大学職員。

2) プログラム

プログラム全体の流れを下記に示しました。また、次ページにプログラムシートを掲載しました。

会場参加型トークセッションでは、1つのテーマについて55分の時間を取り、15分間のゲストトーク(トークテーマについての三人のゲストによるフリートーク)、ゲストトークを受けた15分間のグループ内討論を行った後、25分間の全体討論を行いました。

- ①オープニング
- ②グループ分け
- ③チーム・ビルディング
- ④会場参加型トークセッションⅠ「地域の歴史と文化の継承」
- ⑤会場参加型トークセッションⅡ「若い女性を呼び込むには」
- ⑥会場参加型トークセッションⅢ「よそ者を受け入れる社会」
- ⑦シェアリング・プロセッシング
- ⑧エンディング

プログラムシート

研修会等名称:平成27年度第2回エデュケーレ in たかはし

WSタイトル:消えてたまるか中山間

狙い/成果
目的
 中山間地域を消滅させないために、自分たちに何ができるかを考える。
目標
 参加者各自が中山間地について考えるきっかけとなる。

対象者/人数 対象者:60人が目標 市民30人、大学生20人、高校生10	時間/場所 場所:吉備国際大学国際交流会館 時間:13:30~17:30
--	--

	時間	狙い/目標	活動内容	進行役	場の設定と準備品
開始	13:30 (10分)	オープニング	・開始の宣言 ・配付資料の説明 ・実行委員長あいさつ ・プログラムの説明 ・グラドルールの説明 ・休憩は適宜自由にとってもら うことの説明 ・ゲスト紹介		・シアター型 ・椅子のみでも可 ・司会者用メモを準備 ・マイク準備 ・プロジェクター準備 ・パソコン準備
グループ分け	13:40 (5分)	6人一組のグループに分ける	・学生と大人を分けて誕生日順に 並んでもらう ・1から番号で分ける		
チーム・ビルディング	13:45 (15分)	・アイスブレイク(5分) ・クイズ10分)	・チェックイン		・各グループごとに テーブルを囲む ・自己紹介用紙 ・マーカー ・クイズ用紙
会場参加型 トークセッション①	14:00 (55分)	テーマ①地域の歴史と文化 の継承	・ゲストトーク(15分) ・グループ内討論(15分) ・全体討論(25分)		・グループ討論用紙
会場参加型 トークセッション②	14:55 (55分)	テーマ②若い女性を呼び込 むには	・ゲストトーク(15分) ・グループ内討論(15分) ・全体討論(25分)		・グループ討論用紙
休憩	15:50 (10分)				
会場参加型 トークセッション③	16:00 (55分)	テーマ③よそ者を受け入れ る社会	・ゲストトーク(15分) ・グループ内討論(15分) ・全体討論(25分)		・グループ討論用紙
シェアリング/ プロセッシング	16:55 (30分)	感想の共有	・グループ内感想共有(10分) ・全体感想共有(10分) ・ゲストの感想(10分)		・感想シート
エンディング	17:25 (5分)	アンケート記入	・終わりのあいさつ ・アンケート記入の依頼 ・次回予告		アンケート用紙

準備物等
 ①ワークショップ用品
 ・模造紙・ポストイット・マーカー・テープ・はさみ・磁石・タイマー・笛・指し棒・ストップウォッチ・A4用紙
 ②プロジェクター ③スクリーン ④ホワイトボード ⑤ポインター ⑥カメラ
 ⑦放送機器一式 ⑧CDプレーヤー ⑨飲み物、コップ、おやつ、チョコレート、アメ等
 ⑩菓子盆 ⑪名札 ⑫アンケート回収用の箱 ⑬名札回収用の箱 ⑭パソコン

3. 実施結果

1) オープニング

- ・開始宣言
- ・配布資料の説明
- ・実行委員長挨拶
- ・プログラムの説明
- ・グラドルールの説明
- ・お祝いメッセージの披露
- ・ゲスト紹介

2) グループ分け

- ・学生と社会人に分かれて誕生日順に並び、誕生日の早い人から順番に1～6番まで繰り返して番号を付け、同じ番号の人でグループを作ってもらった。この方法により、社会人と学生が混ざった6つのグループに分かれた。

3) チーム・ビルディング

- ・チェックインとして名前・出身地・趣味・中山間と聞いて思いつくものを、自己紹介シートに記入してもらい、自己紹介シートを使用しながら自己紹介を行った。
- ・「全国の高校のうち男子サッカー部があるのは何%でしょうか？（女子高を除く）」と「一年間のうち六月に結婚式を挙げるカップルは何%でしょうか」というクイズの答えをグループ内で話し合ってもらおうというアイスブレイクを行った。

4) トークセッションの記録

トークセッションはトークを聞きながら同時進行で文字起こしをするという方法で、記録を行いました。従って、重要な発言を箇条書きにした記録となっています。発言者の意図が伝わらない箇所もあるとは思いますが、なにとぞご理解お願いいたします。

トークセッション① 「地域の歴史と文化の継承」 トークリーダー：仲田芳人さん ＜ゲストトーク＞

- ・「かのさと」とは、唱歌「ふるさと」から名前をとったもの。
- ・「町の中をもっと見てみよう」と活動を始める。
- ・地域の人が地域を知らない。
- ・地域の人が、地に足のついた生活を送っていることに衝撃を受けた。
→「みんなの集落研究所」で研究を始めた。
- ・お遍路さんは「自分を見つめるために」88カ所巡り。
- ・台風で被災した方「来年はきっと良くなるだろう」。
→自然とともに生きてきたのだろう・・・
- ・高粱に未利用の資源がたくさんある。
- ・高粱紅茶は捨てられていた二番茶を利用している。

- ・都会の人からみると中山間は宝だが、地域の人には気がつかない。
- ・跡継ぎがない。
- ・女性のための「釣りガール」を開催した。(新聞記事)
- ・地域のことを理解する人と共に行動することが大切。

<グループ内討論の発表>

グループ①

- ・文化の伝承がうまくいってない。
- ・イベントで人を呼び込むのもうまくいっていない。
- ・小中校生が減っている。
- ・日々の生活の中での伝承がうまくいっていない。
- ・地域を知る教育をもっとすべき。

グループ②

- ・市場が小さくなっている。雇用減少。
- ・他地域出身者だからわかる地元市民が気づかない良いところ。
- ・店が早く閉まる、暗いことで治安が心配。
- ・駅前開発において利便性を高めるのは良いが、城下町の良さは残さなければならぬ。
- ・中山間地域の自然の豊かなところが良い。
- ・市民として、以前に比べて川で魚を捕る子供が減少。

グループ③

- ・岡山市出身の方「複数の祭りが同じようにマンネリ化している」。
- ・夏祭りのご飯の準備など、人付き合いの煩わしさがある。
- ・子供が大きくなって、地域のことを思い出す機会がない。

グループ④

- ・「伝わる」→伝え切れていないのが現状。
- ・子供に伝承できていない。
- ・コミュニティが弱くなった。
- ・都会の方が良いと思う→地元のものが良くないから。
- ・でも都会も田舎も同じ。

グループ⑤

- ・外に売り込むにはどうしたらいいのか。
- ・人口が減るも、組織は減っていない。
- ・新しいものに取り組む意欲がない
→高粱紅茶がある！

グループ⑥

- ・年代により中山間の定義の認識が違うので、知りたい！
- ・都会・地方の人から見た中山間は見え方が違う。

<全体討論>

- ・都市計画区域、山村地域の間にあるのが中山間地域。
- ・岡山県の面積の7割に相当する。
- ・資源の供給に欠かせない。
- ・地方の人が「悲観」から入っている。
- ・学校教育で伝え切れていない
- ・「行事仕分け」（行事に義務感）
- ・（石垣島にて）地元の青年会と長老との間で価値観の違いから言い争いに。
- ・高梁には「備中神楽」「渡り拍子」などあるが、なんとか維持している状況も。
- ・子供の減少も要因。
- ・子供たちが思い出に残るような機会を。
- ・上山の事例。
- ・夏祭り（年1回）若者たちが復活させたいと思い、日本各地から来てもらい、祭りをつくっている。
- ・松山踊りは昔、変化を経ている。時代に合わせた方が良い。
- ・「第4の教育」地域教育、学校教育、家庭教育。
- ・それを知るためには、それを愛さなければならない。

トークセッション②「若い女性を呼び込むには」 トークリーダー：木下志穂さん <ゲストトーク>

- ・消滅自治体から抜け出すことが本当に女性の増加につながるのか。
- ・当時の新見女子短大にサポート団体があることで、次第に大学の窓口になっていた。ただ、学生に定住の意思はない。
- ・子供が産まれるには男性も必要。中山間の若い世代がどう考えるか。
- ・公務員のなかで結婚していない人が多い。
- ・婚活 → マッチングがうまくいかない。
- ・自分に自信がないのか、それとも求めるような人がいないのか。
- ・意識を変えるのではなく考える機会を。
- ・行動派は都会に出て、保守派は地元に残る。
- ・地元に戻ると様々なハードルがある。
→ 出産適齢期の女性をいかにうまく呼び込むにはどうするのか。
- ・「個」がどう考えるか。
→ 男女問わず、「個」を磨くことで魅力が生まれ、良い流れができる。
- ・今、役割分担社会になっているが、そうではない。農山村でも。
- ・「できる人」を探して呼び込み、磨く。
- ・「協力隊のジレンマ」入ったが、地元のニーズとの差で、混乱。
- ・ノウハウを伝授してもらおう。「何が必要か」。
- ・「この地域のことを本気で考えてくれる人」が必要。
- ・「消えてたまるか」危機感の表明→覚悟→良いことが多くなる。

- ・こういった「考えてくれる人」になってもらいたい。
- ・意見の強さは女性＞男性。女性に住んでもらわないと高梁は危ない。
- ・失敗パターン・・・「女性は元々乗り気ではなかった」
- ・合意形成がうまくいかないと、難しい。

<グループ内討論の発表>

グループ①

- ・独身女性が田舎に住みづらい。居場所作り。
 - ・「高梁に行くところがない、遊べない」→ショック。
 - ・高梁の男性が女性を引っ張っていく→「男塾」の開催。
 - ・「卒業したら実家に帰りたい」→女性が婿を募集。
 - ・高梁は女性を大切にする市に。教育で植え付け。
- (例) 岸和田出身という女性株が上がる。これを活かせるか？

グループ②

- ・女性が住みやすくなる必要がある。
- ・保育園の充実、スーパー営業時間延長、プライバシー、安心安全、うわさが回らないように。

グループ③

- ・①衣食住 ②教育 ③医療保険 ④働きお金をもらう ⑤コミュニティ
- ・特にコミュニティが重要→ほかのものはコミュニティから生まれる。
- ・女性を呼び込むためのコミュニティ作りが必要。
→サークル、イベント、コミュニティ形成が重要。
- ・きっかけがあることで垣根が低くなる。
- ・コミュニティが地域の潤滑油。

グループ④

- ・「仕事」どんな職場を求めているか→不明。
- ・女性として必要とするものは環境の充実。主婦の交流の場。

グループ⑤

- ・「教育」学校が近く。
- ・「住居」リフォーム代補助。
- ・「安心安全」警察官が近く。
- ・「アピール」広報が必要。
- ・「癒やし」温泉、小児医療の充実。
- ・「コミュニティ」母親同士の交流の場。
- ・「収入源」働く場。
- ・「ショートステイ（短期滞在）」自分に合っているか確かめる。
- ・どんなサービスが住民にとって良いのか確かめる。

グループ⑥

- ・洋式トイレの増設。デリケートなところが大事。
- ・病院、遊び場、運転マナー、行事等。

- ・来てくださいと呼び込む割に、文化・伝統を押しつけている。
→自分たちも変わらなければならない。

<全体討論>

- ・高梁のイメージに「マイナス」が固まっている。
- ・中心部は教育・病院など充実している。
- ・なにが必要か洗い出すことが大切。
- ・高梁の女性がUターン（Iターン）する割合→データは無い。
- ・Uターン、Iターンの方に広報する必要。
- ・自由に意思決定できる場がある。自由に行動しても認めてもらえる。
- ・「昔はこうだったから」という押しつけのような発想を変えなければ。
- ・子守は母親の実家でする傾向が強くなっている。
- ・老後の田舎暮らしは男性主導→女性がうつに。
- ・3. 1 1以降、安心安全を求めて移住。高梁は様々な面から安心安全で便利。
- ・温かみを求めて移住する人も多い。
- ・「何も無いけど良いところ」
- ・日本一自殺の少ない町→意外とコミュニティのつながりがいい加減な所。
- ・強固なコミュニティよりも緩やかなコミュニティ、緩やかな干渉が良いのかも。
- ・岡山市のコミュニティハウス→プライベートなスペースも。

トークセッション③「よそ者を受け入れる社会」 トークリーダー：徳田匡彦さん <ゲストトーク>

- ・問題は地域の受け入れ体制。どう維持されれば良いのか。
- ・(新見では) 年を重ねなければ戸主になれない。若者は難しい。
→こういった保守的なところを変える必要。
- ・戸主になる期間が少なくなっているが、これは危機感の表れなのか。
- ・既存文化と現代との融合をどうしていくか。
- ・地域に根付いた文化も、時代に合わせて変える必要も。
- ・多様性を認める社会に。
- ・移住してくる人にも一定の所作、マナーが必要。
(上山の協力隊では) 目を見て話す。あいさつをきちんとする。
- ・自分が「浮いている」と感じる→10年のスパンが必要。
- ・地域の人々の常識も、Uターンした身にとっては分からないことも。
- ・移住者の目線では分からないことが多い。
- ・地域の人々の中で「常識だから言う必要が無い」との認識もある。
- ・岡山にUターンしたが「よそ者」感は否めない。よそ者を否定される。
- ・「地元以外のものは受け付けない」これは頑固な県民性・気質であるかもしれない。
- ・仕事や住居はネットで知ってもらえるが、地域の状況や雰囲気は分からない。
- ・「開く」ことが必要だと思うこと、地域で完結しているわけではないということ。

<グループ内討論>

このセッションが始まる前に帰られた方がおられるので、グループ①の方に他のグループに移っていただいた。したがって、グループは②～⑥の5グループになりました。

グループ②

- ・受け入れる側・入る側の意見交換をする。
- ・世話人を地域の人で担い風習などを身につけることで、ミスマッチが減る。
- ・行事のことを知らない移住者も。伝統行事があるということを説明・PRする。
- ・祭りなど、大枠は同じでも細かい違いがある。
- ・地域の雰囲気伝える。意思疎通が必要。

グループ③

- ・(留学生に) 高梁での暮らしはどうか。
 - (韓国) 受け入れてくれている。
 - (中国) あいさつをしてくれる。
 - (フィリピン) 母国はオープン。違いを見つけるのでは無く、共通点、共感できるところを見つけるところから人間関係が形成されていく。良いところ探しからはじめ、郷土愛、自信を身につけていく。
- ・違いを楽しむことが大切。

グループ⑥

- ・テーマに疑問。「よそ者」とは、そもそも何なのか。
- ・よそ者と自分とを分ける考え方そのものを変えなければ、受け入れる社会にはなっていない。
- ・よそ者の定義自体が曖昧。Uターン者もよそ者になるのか。

グループ⑤

- ・1年目に受け入れられていないと感じたエピソードから、よそ者が方言を覚える、行事に参加するなど積極性が大事。

グループ④

- ・おためし移住、短期居住。
- ・受け入れ側も情報を出す。
- ・地域のやり方、ブランディング。
- ・しきたり、マナーを教えてくれない→見える化をする。
- ・受け入れ側の意識の変化。地域の常識はよその非常識との認識。
- ・行政がすべきなのか中間組織がすべきなのか。
- ・移住者の面倒をみる人を決めるなどルール化。
- ・伝統・マナーを吸い上げる作業も必要。
- ・高梁市では宇治・平川で「おためし住宅」を実施。予約がいっぱい。

<全体討論>

- ・よそ者という意識を持たないためには、地域に危機感が無いと難しい。
- ・コーディネート役も大事。先輩移住者、協力隊に担ってもらおう。

- ・高梁の状況、各国の状況を比較できた。
- ・共通項を探することで、気づかされることがある。
- ・良いところを探す。決して悪い気にはならず、良い人間関係を構築できる。
- ・「ブランディング」国立大学のアイデンティティ確立に向けてしている。
- ・大学の良さ・特色などを洗い出す。地域でも良さ、特色を洗い出していく。
- ・市役所主体なのか、住民主体なのか。
- ・住民意識の変化が無い。なぜ今までやってこなかったのか。

5) 感想の共有・グループ内感想共有→全体感想共有

グループ②

- ・趣旨が深められた。よりよくするには地域間対話、視野を変えて課題を見いだす。

グループ③

- ・共通点を探ること、一方の強いところで、もう一方の弱いところを埋める。
- ・体験しながら文化を身につける。

グループ④

- ・危機感が無い。アイデアが出ても、変えようとしめない。
- ・市民の意見も様々なので、それをまとめ、前に進まない。

グループ⑤

- ・女性にとって魅力的なまちづくりが大事。
- ・雇用・住宅とコミュニティも大事。
- ・WIN-WINの関係にすることが大切。

グループ⑥

- ・課題解決していく過程で新たな課題も見つかった。
- ・この場で様々な年代の方の意見を共有できた。
- ・危機感を持っている人が多い。
- ・考え方を変えなければならない。
- ・社会に出ないと分からないこともある。身近なところから知っていく必要がある。

6) ゲストの感想

仲田さん

- ・(当時の掛川市長) 宿命的土着と選択的土着がある。
- ・来る人は意識を持ってやってくる。
- ・中山間の定義はなにか。条件が不利な地域。生業を考えていく。
- ・業を兼ねている地域が中山間。これは今も昔も変わらない。
- ・資源を見つけ、育てていく。
- ・「ホームファーマー」(かかりつけ医)のような農家を育てていく。自由貿易になると安い物が増えていく。出口の分かった農業をつくる。
- ・3年かけてA級にしていく挑戦。

徳田さん

- ・中山間とは何か。
- ・中山間地の景観を守る
- ・定住対策に活かすヒントを得ることができた。

木下さん

- ・よそ者として何ができるか。
- ・独自の物があると理解し、選択的、主体的に行動する。
- ・安価なものばかりを買うのではなく、「顔が見える」ものを買う。
- ・(学生に) 知識として吸収するだけで無く、それを行動に移してほしい。

4. アンケートのまとめ

1) 参加者

参加者は、一般市民（教員、主催者を含む）20名、学生18名の38名でした。アンケートは29名からの回答がありました。

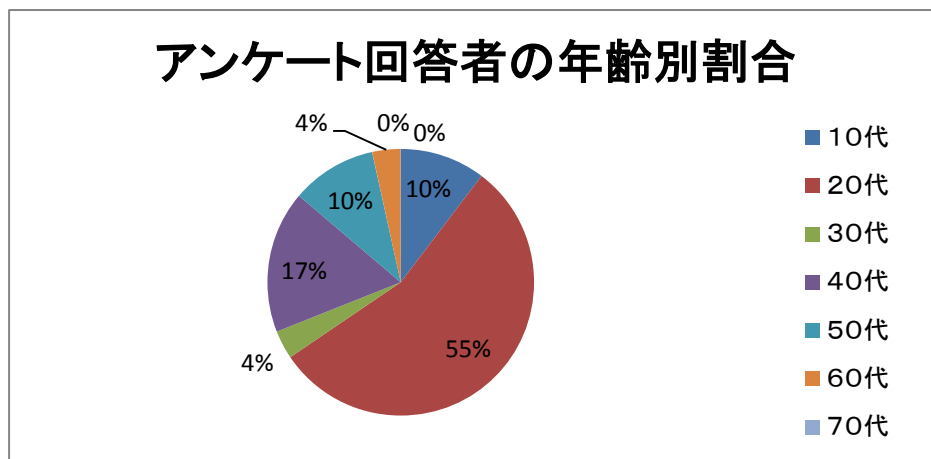
2) アンケート回答者の年齢・性別・居住地

アンケート回答者の性別は男性20名、女性9名でした。年齢は20代が多くなっていますが、これは学生参加者の数を反映しているからです。今回の参加者は高梁市外の人の方が多いという結果でした。

年齢	来場者数
10代	3
20代	16
30代	1
40代	5
50代	3
60代	1
70代	0
80代～	0

性別	来場者数
男性	20
女性	9

居住地	来場者数
高梁市内	13
高梁市外	16

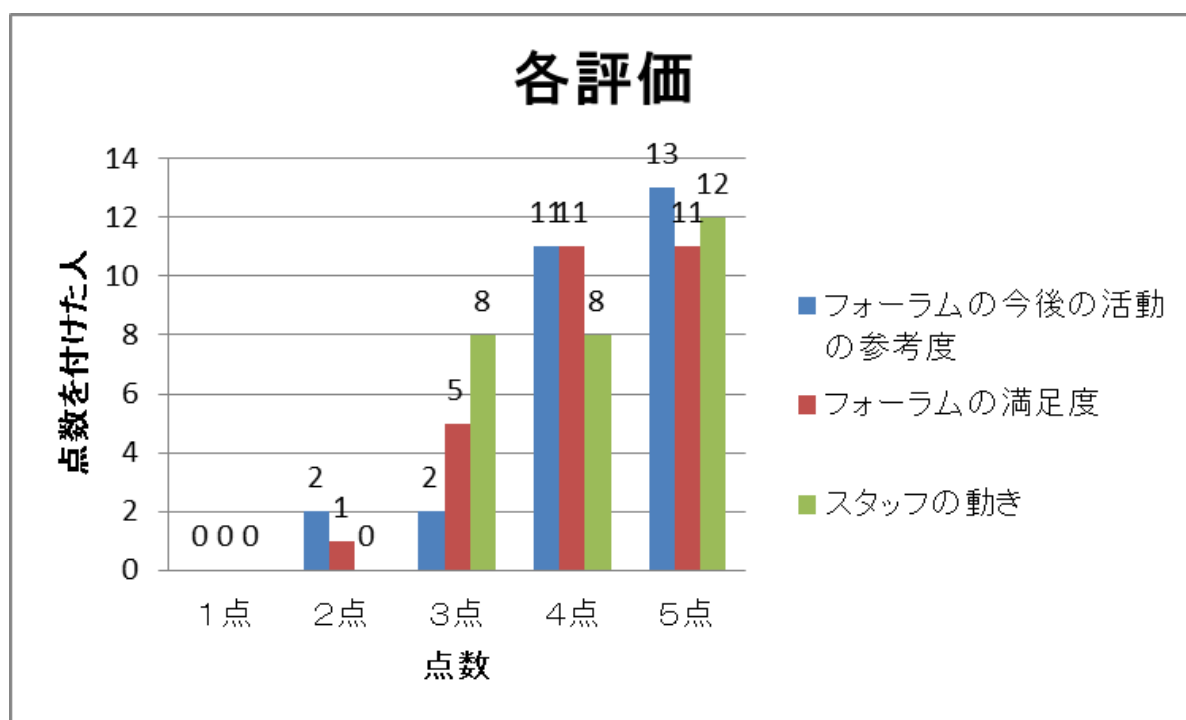


3) ワークショップ等の評価

「フォーラムは今後のあなたの活動の参考になりそうですか」、「フォーラムの満足度を教えて下さい」という質問に対して、4点と5点を付けた人が多く、フォーラムをある程度満足していただけたと思うが、2点及び3点と回答した人もいることから、フォーラムに満足してもらうことは難しいということも分かった。また、「スタッフの動き」についてはまだ改善の余地があるということが示された。

図表：ワークショップの評価等に対する回答結果

	1点	2点	3点	4点	5点	有効回答	無回答
フォーラムの今後の活動の参考度	0	2	2	11	13	28	0
フォーラムの満足度	0	1	5	11	11	28	0
スタッフの動き	0	0	8	8	12	28	0



4) アンケート記載事項のまとめ

〈良かった点〉

- ・グループで色々な方とお話しできたことが良かった
- ・テーマの設定は面白かったです
- ・色々な立場の人と話が出来た
- ・学生さんがリーダーであったこと

- ・時間配分がよかった
- ・皆の意見をたくさん聴きました
- ・意見交換をするのはいいです
- ・交流が多い
- ・テーマが良い
- ・刺激を受けた
- ・違う視点を得られた
- ・留学生と話した
- ・一般の方々の意見を聞いてとても参考になりました
- ・学生だけでなく幅広い世代で話ができ良かった
- ・新鮮な話し合いができた
- ・参考になる話を聞ける
- ・多様性について学べた
- ・議事録を写しながらするのはよかった
- ・参加者の年代が幅広い
- ・テーマ
- ・ワークショップ
- ・良い意見がたくさん出た
- ・3名のコーディネーターの方が会を進めて下さった
- ・学生が多かった
- ・地域の現実的な問題を話し合っ共有することができた
- ・内容が充実しており、あっという間に時間が過ぎた気がしました
- ・3名のゲストの皆さんの活動に興味がありました
- ・普段会わない人の声が聞けた
- ・場そのものの存在
- ・学生頑張った
- ・参考になった
- ・多くの意見が聞けた
- ・学生さんの高梁に対する印象、意見を聞いて非常に参考になった
- ・話しやすい仕組みになっていた
- ・会議のスタイル
- ・普段できない話があった
- ・普段話せない人とつながれた
- ・学生主体の運営や取組が素晴らしいと思います
- ・幅広い年齢層のお話を聞くことができた
- ・関わったことのない分野についての知識を学べた
- ・いろんな年代の人たちの意見が聞いて良かった
- ・フォーラムの雰囲気、やり方が良かった
- ・グループ内の人と仲良く話ができ良かった
- ・専門家が来て専門的な話ができ良かった

- ・いろいろな人とつながることができた
- ・スキルアップにつながった
- ・いろいろな人の考えが知れた
- ・楽しく話し合いしていたのでよかった
- ・ゲストの方の話を聞いて良かった
- ・ゲストが時間を過ぎてもベルでちゃんととめていた

〈悪かった点・改善点〉

- ・ゲストがグループに入ってきていきなりファシリテーションしてその人の考えをおしつけられた
- ・ゲストが入ってきたから意見が言えない
- ・マイクを渡すのにもっと配慮すればよかった
- ・グループワークの形式が決まっているとよかった
- ・マイクの本数がもう少しあった方がよかった
- ・時間が少しきつきつだった気がした
- ・自由に休憩をとりたくてもグループでの話し合いだったからできなかった
- ・休憩がもう少しあるとよかった
- ・時間の分配
- ・進行時のしゃべりをハキハキと
- ・もう少し人数が多ければワールドカフェのような形式でできたかも
- ・参加者の少なさ
- ・長い
- ・高梁市民の参加が少ない
- ・もう少し多様な人が参加してくれるとよりおもしろい
- ・班に付けるコーディネーターのスキルアップ
- ・タイトルと題の矛盾
- ・イベントの広報
- ・寒かった
- ・時間配分を告知してほしかった
- ・空調で問題があったようです
- ・もう少し学生の出番があったらよかったと思いました
- ・最後のあいさつ(まとめ)がもう少し短かったらいいなと思いました
- ・トークとグループ活動と意見交換と全体の流れが最初にもう少し説明がほしい
- ・グループ活動を記入できるフリー用紙がもっと欲しい
- ・トーク者の話のテーマが各々で活動を説明しているが何を話したらよいか迷う

〈スタッフの動きで気になった点〉

- ・エアコンの温度設定

〈感想〉

- ・本当に楽しかった
- ・自分の知識が少ないことに気づきました
- ・こういった会は少ないので大変良かったです
- ・次回も楽しみにしています
- ・参加してよかった
- ・もっと多くの方が参加してもらえたら、それだけの内容がありました
- ・参加できて本当に良かったです
- ・良かったと思います。お疲れ様でした
- ・いい経験になって良かったです
- ・いい経験になった
- ・これまでありえない取組で新鮮でした
- ・対話が大切だと感じました
- ・内容はものすごく楽しかったのでよかった。けれどもっと学生が配慮して動けるようになったらよいと思った
- ・中山間の魅力はまだ知られていないと思うので是非県外の方にも多く来ていただける工夫をして頂きたいと思います
- ・こういった中山間地域について話し合う機会がなかなか無かったので、今回ゲストの皆さんと共に真剣にトークできて良かったと思います
- ・全体的にテーマの焦点が絞りにくかったが、他者の話が伺えて良かったです
- ・グループでの話し合いの時間が短すぎた感があります

5. おわりに

今回のエデュカーレ in たかはしでは、「消えてたまるか中山間」という題目で開催させていただきました。もともと「消えてたまるか中山間」とは、2月8日に岡山県立図書館で行われた参加者双方向型キーワードセッションからきています。それをエデュカーレ in たかはしで形式を会場参加型トークセッションとして行うことで、これから社会に出ていく学生の意見ともうすでに社会に出ている社会人の意見交換をすることができました。また、普段から中山間で活動されている年齢や性別の違うゲストを招いて行うことで、より深まったフォーラムを行うことができたと思います。今回出た様々な意見を参考に、より一層高梁という地域で、地域とともに学ばせていただいていることに感謝し、地域に貢献していければと思います。また、この「消えてたまるか中山間」を企画し、開催する上で出てきた運営上の課題なども今後のエデュカーレ in たかはしに活かしていきたいと思えます。

6. 付録

1) 実行委員名簿

◇実行委員長

高山 眞紀子 (社会科学部 経営社会学科 3年)

◇副実行委員長

枝光 広斗 (社会科学部 経営社会学科 2年)

的場 美希 (社会科学部 経営社会学科 2年)

◇実行委員

荒木 祐介 (社会科学部 経営社会学科 3年)

在末 潤平 (社会科学部 経営社会学科 3年)

板垣 拓哉 (社会科学部 経営社会学科 3年)

蔣 雋二 (社会科学部 経営社会学科 2年)

楊 涵 (社会科学部 経営社会学科 2年)

大川 朱理 (社会科学部 経営社会学科 2年)

中谷 雅尚 (社会科学部 経営社会学科 2年)

行森 俊紀 (社会科学部 経営社会学科 2年)

韓 贊熙 (社会科学部 経営社会学科 2年)

2) 実行委員会の振り返り結果

エデュケーレ in たかはしは、社会に働きかけができる種々の能力を身につけた若者を育成するため、学生が実行委員会を組織し、学生自ら企画立案および運営をおこなうワークショップ型のフォーラムです。ファシリテーション能力を備え地域課題を解決するための手法を身につけた市民や学生を育成することを目的として開催しています。フォーラム終了後に、今後の活動に活かせるように、実行委員会のメンバーで振り返りを行いました。

当日運営

- ・冷房の温度管理をする必要がある。
- ・自分の仕事以外にも進んで仕事をしていた人もいたが、自分の仕事を完全にやりきれていない人もいた。
- ・楽しくできていた。
- ・グループ番号がずれていた。

チェックイン&アイスブレイク

- ・クイズの答えを出すのに少し時間がかかった
- ・チェックインが上手くなった。
- ・解答を記入する用紙を準備し忘れていた。
- ・初めて話す人とも、話しやすい雰囲気できたと思う。

プログラム全体

- ・グループの中でよくしゃべる人、あまりしゃべらない人がいたためどうすればみんな均等にしゃべることができるか考える必要がある。
- ・休憩の回数が少なかった。

- ・スムーズにできていたと思う。
- ・今回は前回と違った感じだったけどうまくできていた。
- ・限られた時間がありそれが少し長くなった時があったが、全体にプログラムの構成はよかった。
- ・全体を通してちゃんと動いていた。
- ・グループの形式をもう少し詳しく決めておいた方が良かった。
- ・グループワークの形式をもう少し詳しく決めておいた方がよかった。

チェックアウト

- ・各グループで感想を共有した後、全体でも感想を共有してもよかった。
- ・個人個人が様々なことを得ていた。
- ・皆の感想をしっかりと聞いて良かった。

準備段階

- ・マイクの本数が少なかった。
- ・練習をすることで改善点を探して直していった。
- ・ほぼ先輩に頼っていた。
- ・全員が会場の椅子の並べ方、机の置き方がわかっていたのでスムーズに準備できていた。

よかった点

- ・時間通り行えた。
- ・グループごとにしっかり話し合えていた。
- ・失敗すること、場の雰囲気が悪くなることもなく良い雰囲気だった。
- ・実行委員みんなが笑顔で話したのを見るにもよかった。
- ・皆が準備をしてくれたおかげで早く準備し終えた。

気になったこと&改善点

- ・マイクの本数が少ない。
- ・休憩の時間が少ない。
- ・時間がずれてしまっていた。
- ・途中で来ていた人の対応を受付係でできていなかった。
- ・話のテーマが難しかったため、自分の考えがちゃんと出せなかったことが多々あった。もう少し予習しておく必要がある。

感想

- ・第一回と比べて確実にいいものになった。
- ・今まで考えたことのないテーマだったので今回の会を通して考えることができて良かった。
- ・今回司会をして全体の事が見えて色々なことを吸収できて良かった。
- ・先輩に頼るばかりでいざ自分がやれと言われたらあんなにうまくできないと思った。
- ・中山間について学び色々な人と話ができて良かった。

3) ポスター・チラシ

文部科学省 **地(知)の拠点**

本取組は吉備国際大学「だれもが役割のある生きいきした地域の創成」事業で、平成25年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」として採択され支援を受けています。

平成27年度 第2回 エデュカーレ in たかはし

消えてたまるか中山間

～ 会場参加型トークセッション ～

仲田芳人 <ul style="list-style-type: none">岡山県地域づくりマイスターかのさと体験観光協会事務局長新見で地域づくり活動	徳田匡彦 <ul style="list-style-type: none">高梁市役所(有漢地域局)にひっそり勤務地域に飛び出す公務員アワード2014受賞	木下志穂 <ul style="list-style-type: none">NPO法人みんなの集落研究所執行役高梁市宇治地区、松原地区での集落支援ワークショップに参画
---	--	--

最近、地域創生が叫ばれていますが、地域創生とは人口を増やすことなのでしょうか？ 観光客を増やすことなのでしょうか？ それとも……

今回、中山間地域の活性化に深く関わっておられる三人のゲストをお迎えして、中山間地の未来について語り合うトークセッションを開催することにしました。中山間地の未来について、会場の皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

平成27年7月11日(土) 13:30～17:30
(受付開始13:00)

吉備国際大学国際交流会館2階多目的ホール

フォーラム終了後に有漢町川間(飲食店が一軒もない、正真正銘の中山間地域)で、地域のこし協力隊や地元有志の皆さんと現地意見交換会(食事・飲み物を準備しています。各自実費をお願いします)を開催します。17時45分に国際交流会館前にボンネットバスが迎えに来ます。高梁帰着は21時45分頃です。奮ってご参加下さい。参加ご希望の方は当日受付で申し出て下さい。

主催: 吉備国際大学 実施主体: エデュカーレ in たかはし実行委員会 後援: 高梁市、高梁商工会議所青年部 協力: 吉備国際大学社会科学部 井勝研究室 吉備国際大学地域創成農学部 森野研究室 吉備国際大学外国語学部 大下(朋)研究室	連絡先 〒716-8508 岡山県高梁市伊賀町8 吉備国際大学 社会科学部 経営社会学科 井勝(いかつ)研究室 TEL/FAX:0866-22-9223 E-mail:ikatsu@kiui.ac.jp
---	---

「エデュカーレ in たかはし」
社会に働きかけができる種々の能力を身につけた若者を育成するため、学生が実行委員会を組織し、学生自ら企画立案および運営をおこなうワークショップ型のフォーラムです。ファシリテーション能力を備え地域課題を解決するための手法を身につけた市民や学生を育成することを目的としています。

4) アンケート

平成27年度 第2回 エデュカーレ in たかはし

アンケート

年 齢： 10代 ・ 20代 ・ 30代 ・ 40代 ・ 50代 ・ 60代 ・ 70代 ・ 80以上

性 別： 男性 ・ 女性

居住地： 高梁市内 ・ 高梁市外

★本日のフォーラムは今後のあなたの活動の参考になりそうですか？

参考にならない 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 参考になる

★本日のフォーラムの満足度を教えて下さい。

不満足 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 満足

★スタッフの動きはいかがでしたか？

悪かった 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 良かった

(気になった点：)

本日のフォーラムの良かった点をご記入下さい

1. _____

2. _____

3. _____

本日のフォーラムの悪かった点、改善点を教えて下さい。

1. _____

2. _____

3. _____

感想をご記入下さい。

ありがとうございました

5) 写真

①受付風景



②実行委員長挨拶（高山） 司会進行（行森）



③オープニング



④アイスブレイクはクイズの答えをグループで考えました



⑤ 3人のゲストによるトークセッション



⑥ ゲストトークを受けてグループ内で討論を行いました



⑦グループ内討論結果の発表



⑧グループ内討論を受けて、全体討論を行いました



⑨グループ内討論結果の発表



⑩ グループ内討論結果の発表



⑪ グループ内討論結果の発表



⑫ グループ内討論の様子



⑬トークを聞きながら文字起こしをしました。

休憩時間の様子です。



⑭フォーラム終了後に、有志の皆さんで情報交換も兼ねて、地域おこし協力隊の皆さんが中心となって開催した「川関人気広場」に行きました



⑮川関には地域の方がたくさん来ておられました



6) お祝いのメッセージ



加藤勝信
衆議院議員

内閣官房副長官
衆議院議員

平成二十七年七月十一日

第二回エデュカーレinたかはし 消えてたまるか中山間が、盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。
本日の催しが、高梁地域の更なるご活性化、ご発展を担う一翼となる素晴らしい催しとなりますようご祈念申し上げます、併せて今後益々のご隆盛と皆様方のご健勝ご多幸をお祈りいたします。

7) 川関人気広場チラシ

18:30～ みんな集まれ!! **入場無料**
ちゃぐりいけいた氏のショータイム
地域おこし協力隊
→長野・エドウィン・タケルのワンナイトダンス
→長谷川竜人が川関で事件を起こす!?

19:00センター19:30
↓ **ポンバス試乗会** ↑
19:10常山公園19:20

20:00～ 川関のど自慢!カラオケ大会!

みんなで楽しくワイワイ ガヤガヤ
川関人気広場
7月11日(土)
18:00～21:00
川関集落センター

メニュー(有料)
ヤマメの塩焼き、ピザ、チヂミ、おでん、おにぎり、唐揚げ、しゃしなっほパスタ、生ビール、日本酒、ソフトドリンク など

小学生以下には
カッツイカを
プレゼント!!

主催:美しい川関を愛でる会
お問い合わせ: 地域おこし協力隊 坂本陽 080-1230-8877